

令和3年5月31日

令和2年度 学校関係者評価報告書

田中千代学園

学校関係者評価委員会

令和2年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- ・大豆生田 守 桑沢学園評議員
- ・松田 祐之 文化学園大学服装学部教授
- ・竹崎 博久 小田急百貨店顧問
- ・北出 義博 渋谷ファッション&アート専門学校講師
- ・松木 茜 渋谷ファッション&アート（田中千代ファッション）専門学校卒業生
- ・杉本 美智子 渋谷ファッション&アート専門学校在校生保護者

2. 学校関係者評価委員会開催状況

第1回委員会 令和2年10月23日（金）13:30～15:00 本校会議室

第2回委員会 新型コロナウイルス感染非常事態宣言下のため会議を中止し、
資料（中期計画案）郵送による意見収集。

第3回委員会 中止

報告事項

学校法人田中千代学園「中期計画案」を評価委員会で評価し、その結果を踏まえ

「令和2年度自己評価報告書」を完成させることとした。

以下にその「自己評価報告書所見」を記すこととする。

[令和2年度自己評価報告書所見]

コロナ禍は社会の様々な場面で急激な変化をもたらした。日本のアパレル業界の行き詰まりの露呈、高齢者の活動に対する意識的・経済的な制約、出入国制限による留学生の動向などの変化は、本校の今後の在り方にもかかわる重要な問題である。今後ともこれらの変化への対応に着手するとともに、コロナ後の社会で存続して行くための学校運営、カリキュラム構成の立案と具体化を進めていくことが肝要である。

服飾専門課程

本年度入学生から1科体制とし、入学してから半年間はファッション、アパレルに関する基礎的な知識、技術を学び、その後、クリエイターコース、ビジネスコースに分かれ、専門性を高めて行くカリキュラム編成とする。

文化専門課程

美術を初めて学ぶ学生への対応や、各課・各コースにおける課題制作について、専任教員の増員や非常勤講師の出講時間を増加することによって、より丁寧な指導を行うカリキュラム編成とする。

基準1 教育理念・目的・育成人材像：

教育理念・目的・育成人材像を広く一般に供覧し、学生に周知し、日常の授業の中でもそれを前提に指導してゆくこと。また、常に社会のニーズに適合しつつ、他校とは異なる授業科目を速やかに取り入れて行くことを課題とする。

基準2 学校運営：

コロナ禍とAIの進化に伴い社会や産業の構造が大きく変化し、学校運営は苦戦を強いられている。服飾専門課程も文化専門課程も体制の改革とそれに対応する講師探しが急務である。

基準3 教育活動：

授業内容や授業体制に関しては、基礎の重視に加えてキャリア教育、実技教育を進化する科目を配置する。服飾課程では就職に優位となる資格・免許取得の指導体制に重点を置き、文化過程では発表できる作品の制作を指導し、発表にチャレンジすることを推奨、バックアップする。

基準 4 学習成果：

コロナ禍での就職活動は企業の求人数の大幅減少で厳しい状況にある。

就職担当、教員は卒業生の社会的評価を把握し、卒業後も恒常的にコンタクトを続け、在校生への就職支援や授業に招いて講演等を依頼している。

基準 5 学生支援：

就職支援・進路相談・中途退学対応・学生相談・経済的支援・健康管理・課外活動への支援・保護者との連携など今後とも継続し、その時その時で学生のニーズに沿った支援に費やすことができる原資の適正な配分を考えておくことが必要である。

基準 6 教育環境：

通常の実環境整備に加え、令和 2 年度はコロナ禍における教育環境の整備にオンライン授業用教育機器の導入、校内ネットワーク環境を整えるための Wi-fi 機器の設置、校内で入り口の検温器、サーキュレーター、消毒液の設置やパーテーションの設置、フェイスガードの配布などを実施する。

基準 7 学生の募集と受け入れ：

コロナ禍により入学相談や説明会参加が困難なため、リモートで対応できる体制の整備やホームページの更新、SNS の発信を積極的に行っている。

基準 8 財務：

コロナ禍での学生募集活動は先が読めず、入学予定者は前年比若干減を想定し、学納金収入は減収となると予測される。収益事業である「公開講座」の収益構造は大幅に改善し、令和

3年度はプラスに転じる予定である。各コースの在り方を抜本的に見直し、他校にない分野に特化する方向を視野に置くこととする。

基準 9 法令等の遵守

学校教育法、専修学校設置基準他関係法令等を遵守し、学校運営を行っている。

法令等の遵守、個人情報保護の対策等は、教職員については個々人の段階に応じた研修等で継続的に周知していくと共に個人情報規定、基本方針を再整備する。

基準 10 社会貢献・地域貢献

社会貢献、地域貢献あるいは、ボランティア活動も、学校の原点であるクリエイティブ性のある内容で継続させていくことが重要と考える。

以上